

別紙

福祉サービス第三者評価の結果

1 評価機関

名称： コスモプランニング株式会社	所在地： 長野市松岡1丁目35番5号
評価実施期間： 令和2年6月23日から令和2年11月20日まで	
評価調査者（評価調査者養成研修修了者番号を記載） B18014、050482	

2 福祉サービス事業者情報（令和2年10月現在）

事業所名： （施設名） 山ノ内町立志賀高原保育園	種別： 保育所	
代表者氏名： 町長 竹節 義孝 （管理者氏名） 園長 渡辺 淳子	定員（利用人数）： 30名（9名）	
設置主体： 山ノ内町 経営主体： 山ノ内町	開設（指定）年月日： 昭和49年8月1日	
所在地：〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町大字平穏7148		
電話番号： 0269-34-2808	FAX番号： 0269-34-2808	
電子メールアドレス： —		
ホームページアドレス： http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/		
職員数	常勤職員： 5名 非常勤職員： 0	
専門職員	（専門職の名称） 名	
	・園長 1名 ・主任保育士 1名 ・保育士 2名	・給食調理員 1名
施設・設備 の概要	（設備等）	（屋外遊具等）
	・乳児室 … 1室 ・ほふく室… 1室 ・保育室 … 2室 ・遊戯室 … 1室 ・調理室 … 1室 ・事務室 … 1室 ・便所 … 1室	・砂場 ・滑り台 ・太鼓橋 ・ジャングルジム ・ブランコ ・鉄棒 ・雲梯 ・シーソー

3 理念・基本方針

○山ノ内町の保育目標

子どもたちが「のびのび」、「すくすく」、「たくましく」育つことは、子を持つ親にとって最大の願いであり、保育園をはじめ地域全体の願いでもあります。

子どもたちの健やかな心身の成長を願って、次の保育目標をたて、年齢、個人差を考慮しながら保育を進めます。

- ・十分に養護のゆきとどいた環境のもとに、くつろいだ雰囲気の中で子どもの様々な欲求を適切に満たし、生命の保持及び情緒の安定を図ること。
- ・健康、安全など生活に必要な基本的な習慣や態度を養い、心身の健康・体力の基礎を培うこと。
- ・人とのかかわりの中で、人に対する愛情と信頼感そして人権を大切にする心を育てると共に、自主、協調の態度を養い、道徳性の芽生えを培うこと。
- ・自然や社会の事象について興味や関心を育て、それらに対する豊かな心情や思考力の基礎を培うこと。
- ・生活の中で、言葉への興味や関心を育て、喜んで話したり、聞いたりする態度や豊かな言葉を養うこと。
- ・様々な体験を通して、豊かな感性を育て、創造力の芽生えを培うこと。

○山ノ内町の人権・同和教育目標

- ・健康で明るく、だれとでも仲良く遊べることができる豊かな心を育てる。
- ・困っている友達に、優しさや思いやりの気持ちを持って接し、みんなで助け合う心の大切さを培う。
- ・仲間はずしや意地悪に負けず、差別をはねのけることができる態度を養う。

○志賀高原保育園の保育理念

- ・豊かな自然の中で、子どもの健やかな心身の育成を願う。
- ・保護者・地域と一体になり、保育を進める。

○志賀高原保育園の保育目標

恵まれた大自然と小集団の良さを生かし、異年齢保育、クラス別保育の中で温かい人間関係の深まりを培い、一人一人の子どもの姿を見守りながら丈夫な体と思いやりのある豊かな心が育つよう保育を進めます。

- ・優しく思いやりのある子ども
- ・健康で明るい子ども
- ・物事に意欲的に取り組める子ども
- ・忍耐力(がまんする)のある子ども
- ・話をよく聞き言葉を正しく豊かに使える子ども

4 福祉サービス事業者の特徴的な取り組み

当志賀高原保育園は山ノ内町が運営する5つの公立保育園の一つの保育園で、開設は昭和49年8月となっているが、当保育園の玄関の卒園写真の掲額には更に古い、前身とも思われる時期のものがあり、おそらく昭和20年代頃から運営されており、60年以上の歴史を刻んでいるものと思われる。

当保育園の運営主体の山ノ内町は長野県の北東部に位置し、上信越高原国立公園の中心にあり、西は里山の高社山と箱山支脈を境に中野市に隣接し、北は木島平村および下水内郡栄村に接している。また、南は笠ヶ岳、三沢山を境として上高井郡高山村に接し、東は群馬県との県境をなしている。四季折々の素晴らしい自然に恵まれた志賀高原や北志賀高原と、温泉地として知られる湯量豊富な湯田中渋温泉郷を持ち、周りを山地に囲まれた盆地であり、山林原野が93%（うち7割余が志賀高原）を占め、集落は河岸段丘や扇状地状の緩やかな傾斜地に発達している。明治22年の市町村制

の施行とともに平穏・夜間瀬・穂波の三つの村によって構成されるようになり、その後、昭和 29 年 4 月平穏村が、平穏町となり、昭和 30 年 4 月、1 町 2 村が合併して今日の山ノ内町となって現在に至っている。

当保育園のある志賀高原地域は、その中心に 2035.7m の志賀山をはじめ、鉢山、笠ヶ岳、東館山等が近接し、南は横手山から白根山（志賀高原地域外）方面に連なり、北東は岩菅山及び本地域で最高峰である裏岩菅山、北方は焼額山からカヤノ平を経て毛無山へと連なり、北北東には雑魚川を隔てて台倉山から遠見山の稜線が鳥甲山まで連なる起伏に富んだ地形である。

志賀高原の面積は約 163 平方 km に及び、1998 年には長野冬季オリンピックが開催され、「日の丸飛行隊」の大活躍が思い起こされるが、志賀高原でもアルペンスキー（回転）とスノーボード（大回転）が行われ、113 軒のホテル、企業の保養所、19 箇所のスキー場が点在し、地域住民は約 170 世帯あり、その多くがホテルやスキー場に関わる仕事に就いている。

そうした豊かな自然に恵まれた上信越高原国立公園の中のユネスコパークに設定された志賀高原エリアの中央に位置する蓮池地区、標高約 1500 メートルの国道 292 号線（志賀草津ルート）から少し入った場所に当保育園の園舎があり、四季折々の自然との触れ合いを通じて、子ども達の感性が豊かになっていく姿を目にし、また、自然の中で全身を使った楽しい遊びを行っている。更に、春には残雪のスキー場でそり滑り、山菜取りを楽しみ、秋には、池や遊歩道を歩き、紅葉散策を楽しんでいる。

子どもたちは地区の行事の「大蛇祭り」や保護者と一緒に「どんど焼き」などを行い伝統行事に参加している。保護者の指導により、スキー教室を行い、毎年志賀高原統一スキー場開きには 5 歳児がスキー滑走をしている。加えて、雪上運動会を保護者と行い、一人ひとりがスキー滑走を披露している。

当園では長野県が進めている「信州やまほいく認定制度（信州自然型保育認定制度）」の認定園として「豊かな自然と温かな地域の中で、子ども達の”人生の根っこ”を育みます」という活動を推進しており、山の斜面に続いた園庭には鉄棒、滑り台、雲梯、ブランコ、砂場などの遊具があり、特に、一般的にはブランコの使用が禁止されている中、当園では子ども達にルールを身につけてもらうことで注意を促し、自らリスクを回避しようという力をつけるようにしている。

現在、当園には 1 歳児 1 名と 2 歳児 2 名のひよこ組、3 歳児 3 名のりす組、5 歳児 3 名のきりん組の三つのクラスがあり、それぞれの発達段階に合わせて作成された、当園の令和 2 年度「全体的な計画」の「保育理念」や「保育方針」に沿い、「健康で明るい子ども」「優しく思いやりのある子ども」などの五つの「保育目標」の実現に向けて全職員が前向きに取り組んでいる。

また、当園では保護者のニーズに合わせたサービスを提供しており、特に、一時預かり保育を実施し、保護者の仕事、疾病、保護者の育児に伴う心理的・肉体的負担のリフレッシュ、冠婚葬祭など、一時的に家庭で子どもを保育できない場合に応じている。

町として将来に向けた「第 6 次山ノ内町行政改革大綱実施計画」や「山ノ内町 まち・ひと・しごと創生 総合戦略」が「『量の改革』から『質への改革』へのシフトチェンジ」として策定されており、共働き世帯やひとり親世帯の増加により、仕事、家庭、子育ての両立が難しい家庭も増えている中、当保育園として町子ども支援係や保健センター、子育て支援センターなどと連携し、結婚・出産・子育てという、子どもが生まれる前から切れ目なく子どもの状況を把握し、子ども達の健やかな成長を支え、子育て家庭の負担軽減のために「保育理念」や「保育方針」、「保育目標」、「全体的な計画」に沿い、園全体として質の高い保育サービスを提供しようと、保護者・地域の人々・地域資源との連携を図り、職員の資質の向上などに積極的に取り組んでいる。

5 第三者評価の受審状況

受審回数（前回の受審時期）	今回が初めて
---------------	--------

6 評価結果総評（利用者調査結果を含む。）

◇特に良いと思う点

1) 自然環境を活かした保育

国立公園の中に位置する当園は大自然に囲まれ、子どもたちと職員は四季折々に変化する自然の豊かさを感じながら生活し、子ども一人ひとりの可能性をのびのびと育て、子どもにとってこの幼少期の豊かな体験が“人生の根っこ”となるような保育をしている。

当保育園は信州型自然保育(信州やまほいく)の認定を令和元年9月に受け、自然保育に重点を置き保育に取り組んでおり、自然との関わりの中で五感（聞く、見る、触れる、嗅ぐ、味わう）を使った活動を多く行い、自然への興味、関心を高め、心の癒しや探求心を育てている。

園庭脇には小高い山がありクヌギや白樺の木々に囲まれ、山菜採り、落ち葉集め、木の実拾い、雪遊びを全身で楽しむことができ、身近な自然の中で興味や関心が育ち、子どもたちの成長へと繋げている。散歩途中で猿や熊などの動物にも遭遇することもあり、園児は外遊びには鈴を身に付け安全に配慮している。園児9人の小規模な園ではあるが、全員で遊び、給食やお昼寝も一緒に行い、年上の子どもが年下の子どもの面倒を見て、年下の子どもは年上の子どもの真似をして行動するなど兄弟のように関わり、家庭的な雰囲気の中で優しさ、信頼が生まれている。

散歩や山で遊ぶ保育を多く取り入れているので体力もつき、体幹もしっかりと成長している。2月には豪雪地帯ならではのスキー教室、雪上運動会が計画されスキーの発表等を楽しみながら自然のやさしさとたくさんの刺激の中で、子どもたちは自分が楽しむ方法を主体的に見つけ豊かな経験を積んでいる。

2) 人間関係を育む他保育園との交流保育

子どもの発達段階を踏まえ、より充実した教育・保育を実践していくためには、幼稚園・保育所の保育者同士が互いの教育内容や指導内容について理解を深めることが求められており、また、子ども同士のかかわりは、子どもの豊かな心や健やかな体を育むことにつながることから、子ども同士がふれあう機会を充実させることが求められている。

幼稚園・保育所の保育者同士の理解を深めたり、子ども同士が楽しくふれあったりするためには、幼稚園・保育所が連携し、それらの機会づくりを充実させていくことが必要ではないかと思われる。

当保育園は全園児数が9名（1歳児1名、2歳児2名、3歳児3名、5歳児3名：令和2年10月現在）と少人数の園である。そうした中で当園の幼児は運動あそびやセカンドステップ、プールなどの折にふれ、職員が付き添い園バスで同じ公立のかえで保育園へ交流保育に出掛け、多くの子どもたちと関わり、また、一緒に遊びながらルールや言葉を覚え様々な体験をしている。初めの頃は大勢の友達に圧倒され不安も見られたが子供たちも回を重ねるうちに仲間に入り、仲良しの友達もでき、楽しく遊び、大勢の友だちとの活動の嬉しさと楽しさを味わっている。また、セカンドステップを受けることで友だちの話を聞き、自分の気持ちを伝えることもでき自信へと繋げている。

子どもたちをめぐる環境は昔とは大部変わり、核家族化・少子化により、祖父母や兄弟とのふれあいが減り、子ども部屋を与えられることで一人で閉じこもる場所もでき、さらに、地域の中でも、人が集まる井戸端などが消え、子どもが人との関係を学ぶのは、母親からだけになってきているのではないかとされている。人との関わりの中でも、最近特に大きく欠けているものが「子ども同士の関わり」で、園生活の中で子ども同士の関わりを学ぶことが、重要になってきていると言われている。今、保育園には、家庭や地域の中で育むことが少なくなってきた「人と関わる力」を、集団保育のなかでつけていく役割が望まれているのではないかと思われる。

新保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の「協同性」の中でも「友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる」としており、当保育園では町の子ども支援係及び交流しているかえで保育園と協働しながら、当園の子どもたちが他の園の子どもたちと親しみ、支え合って生活することを通じて、自立心を育て、人と関わる力を養おうとしている。

3) 子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にする保育

町の5公立保育園として共通の人権・同和教育目標を掲げ、「誰とでも仲良く遊ぶことができる豊かな心」「友達に優しく思いやりの気持を持ち助け合う」「仲間はずれや意地悪に負けず、差別をはねのけることができる」等、子どもたちの心の成長に配慮した保育を行っている。また、セカンドステップ(注)や日々の保育の中で自分の体の状態がわかり自己表現ができ、友達の気持に気づき話し合うことの大切さを育んでいる。

平成30年2月からの新保育所保育指針では「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として10の姿を上げており、当園の全体的な計画の中でもこの「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を掲げ、指導を行う際に考慮することとしている。そうした中で10の姿に「自立心」と「共同性」を取り上げている。

その「自立心」の内容は「身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、しなければならないことを自覚し、自分の力で行うために考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信をもって行動するようになる」となっており、また、「共同性」では「友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したりし、充実感をもってやり遂げるようになる」とするもので、当園では子どもの主体的な活動や子ども相互の関わりを大切にする保育が、生活や遊びを通して総合的に行われており、恵まれた自然環境の中で十分体を動かして遊べるように園周辺の環境を整えている。園庭には固定遊具(鉄棒、滑り台、雲梯、ブランコ、砂場)が備え付けられている。一般的にブランコの使用が禁止されている中、ルールを身につけることでそのリスクを回避しており、浮遊感や風を切る爽快感を体験し、自分でやってみようとする姿から危険を知り身を守る力が育まれるようにしている。

職員は大人(保育士)の目線で利便性、安全性を判断するのではなく、今の状況を子どもにどう理解させ活かしていくかを考え、子ども達が自ら考える力、工夫する力を身につけられるよう支援を行っている。少人数での保育を活かし異年齢一緒の生活、遊びの場も多く、家庭的な雰囲気の中、優しさ、助け合い、学びの心が育っており、子どもが自発的、意欲的に関わられるような環境を整備し、子どもの生活と遊びを豊かにする保育を展開している。

(注)

セカンドステップとは 集団の中で社会的スキルを身につけ、さまざまな場面で自分の感情を言葉で表現し、対人関係や問題を解決する能力と怒りや衝動をコントロールできるようレッスンするプログラムで次の3つから構成されている。

「相互の理解」

自分の気持ちを表現し、相手の気持ちに共感してお互いに理解し合い思いやりのある関係をつくる。

「問題の解決」

困難な状況に前向きに取り組み、問題を解決する力を養って、円滑な関係をつくる。

「怒りの扱い」

怒りの感情を自覚し、自分でコントロールする力を養って、建設的に解決する関係をつくる。

4) 保護者や地域の人々とのふれ合い

町の方針として地域の中で豊かに育ち、一人ひとりの健やかな育ちが等しく保障されるよう「子どもや子育てにやさしいまち 山ノ内 みらいへつなぐ、ふるさとのまちづくり」という基本理念を「第2期山ノ内町子ども・子育て支援事業計画」で定め、総合的な施策を進めている。

小規模な当園は職員数も少ない中、保護者会の協力が多く得られ、子供たちや園を支えていただいている。全保護者参加の入園式、運動会、遠足、参観日、卒園式などの他、スキー教室の指導、積雪に向けての雪囲い作業、七夕飾りの準備などの多くの援助も受けている。

また、園のある地元の人々の集まり「志青会」、路線バスの運転士、駐在所署員、電力会社出張所所員、環境省志賀高原自然保護官、水道組合員などとふれ合い、特に冬場の除雪では駐在所署員、電力会社出張所所員を始め多くの人々の関わりがあり、志賀高原の全地域で子供たちを見守り、育み、支えていこうという気概が感じられる。

更に、祖父母との交流、地元の「大蛇祭り」「統一スキー場開き」「どんど焼き」等での地域の

方々との交流、JAきこ部会による栽培キノコの収穫、節分の鬼役やサンタクロース役に関わっていただく人々などとの関わりなどもあり、園として積極的な連携を図ることで子どもたちの地域社会での体験の場を作っている。

当園の全体的な計画でも新保育所保育指針の「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」として「社会生活との関わり」を上げている。幼児期の身近な社会生活との関わりが、近い将来就学する小学校生活において、相手の状況や気持ちを考えながらいろいろな人と関わることを楽しんだり、関心のあることについての情報に気づいて積極的に取り入れたりする姿につながり、また、地域の行事や様々な文化に触れることを楽しんで興味や関心を深めることで、地域への親しみや地域の中での学びの場を広げている。

◇改善する必要があると思う点

1) 保育の質の向上に向けた更なる体制の整備

保育の質の向上のためには、日々の取組とともに、保育所全体の自己評価の実施や第三者評価の受審、苦情相談内容にもとづく改善活動等が総合的、継続的に実施される必要があるといわれている。そのため、保育所が自ら質の向上に努める組織づくりをすすめることも大切であるといわれている。

当保育園では年2回、町職員としての「評価シート」で自己評価を行っている。今後、自己評価、第三者評価等の結果を基に、改善の課題を明確にし、この解決・改善に更に計画的に取組むことが必要ではないかと思われる。

2017（平成29年）年3月に改定された保育所保育指針では、「保育内容等の評価」とともに、「評価を踏まえた計画の改善」が示された。よりよい保育の実現に向け、評価の結果を次の保育へ活かしていくことについて、記載内容の一層の充実が図られた。

また、保育指針に基づく保育所等の特性を踏まえた保育の質の確保・向上を図るため、保育所をはじめとする様々な保育の現場においては「保育所における自己評価ガイドライン(2020年改訂版)」を十分に活用し、自己評価の取組を進め、保育の改善・充実を図るとともに、一人ひとりの保育士等の資質・専門性や職員間の協働性をより高めていくことも求められている。

更に、自己評価に取り組む過程での対話・交流や結果の公表を踏まえて、保護者や地域社会との保育についての理解が共有されることが望まれており、保育内容等の評価に関する一連の取組を通じて、当保育園の日々の保育がより充実したものとなり、子どもたちの豊かで健やかな育ちの保障へと繋げられていくことが期待される。

2) キャリアパス的な制度についての検討

年功序列、終身雇用が一般的であった時代から変わり、個人個人の進む道が多様化し将来の自分の姿が描きにくくなっているといわれている。どの程度の習熟レベルに達すればどう昇進できるのか、自分のスキルと経験をどのように活かすことができるのかの目安があれば意欲的に仕事に取り組むことができるのではないかと思われる。

公立という立場から難しいと思われ、また、保育職というある意味、実績考課が計りにくい職種ということもあるかもしれないがキャリアパス的な制度の導入について検討をされる余地があるのではないかと思われる。

キャリアパスとは、簡単にいうと、今後どのような職務にどんな立場で就くのか、そのためにどのような経験を積むのかといった道筋のことであるといわれている。キャリアパスを示すことで、職員の目指すべきものがはっきりし、モチベーションアップにつながるという考えもあるようである。

自分が仕事上でどのようになりたいのかをよく考え将来設計を立てたり、今後どのようなスキルを身につけて活躍していきたいのかを考える意味から、更に、新しい福祉人材の確保という面からもキャリアパス的な制度について研究されていくことが期待される。

3) マニュアルの更なる整備

一般的に保育園においては、企業のように作業マニュアルというものが存在していることが少ないのが現状ではないかと思われる。特に、同じものを変わらず生産する工場とは違い日々子ども達の状況に応じて臨機応変に対応していかなければならないということから当保育園でもマニュアルに頼らない形で実際に稼働しているので大きな支障とはなっていないものと思われる。

どの保育園でも新人保育士が入ってきた際には、教えるべき・知っておくべき情報があるはずで、その情報をひとまとめにしたマニュアルがあることで保育士の成長スピードが変わっていくものと思われる。また、既存の職員の一定水準の保育を保障するためと知識やスキルを高めるための両方の意味からのマニュアルが必要ではないかと思われる。教える人材・人が足りないといわれている現代であるからこそ、保育士を指導するために必要なマニュアルやテンプレート、資料などをしっかりと整備することで、保育の基盤づくりや質の向上に繋がられるものと思われる。

組織に柔軟性をもたせる場合には、事細かに規定が存在すると実際の状況に合った活動にブレーキがかかりかえって邪魔になることもあるため、あまり細かく定めないケースもあるが、職員会議等で周知し共有している実習生への統一した指導内容等を文章にまとめることを期待したい。また、地域社会と保育所をつなぐ柱の一つとして、ボランティアの受け入れマニュアルを位置づけられたら良いのではないだろうか。更に、子どもや保護者などのプライバシー保護についての職員マニュアル等の整備も期待される。

7 事業評価の結果（詳細）と講評

共通項目の評価対象Ⅰ福祉サービスの基本方針と組織及び評価対象Ⅱ組織の运营管理、Ⅲ適切な福祉サービスの実施（別添1）並びに内容評価項目の評価対象A（別添2）

8 利用者調査の結果

アンケート方式の場合（別添3-1）

9 第三者評価結果に対する福祉サービス事業者のコメント

（令和 2年11月19日記載）

第三者評価を受け、自分の未熟さや甘さに気づきました。日々、例年通りの仕事に追われ、気づかなければいけなかったことやマニュアルの必要性と確認など沢山あり、これからの課題として受け止めました。

保育園の基本方針についての説明が不十分だったり、プライバシー保護についての承諾が手紙や口頭のみであったりと保護者への対応が、小規模園であることから、保護者との会話で済ませていたことに反省しました。また、けが、事故、苦情、虐待など今までないという理由にはならないと思うので、今まで以上に保育士同士の確認、いつでも対応できるようにマニュアルの作成や記録の必要性を強く感じました。何かあった時には遅いので、志賀高原保育園としてどの様に対応していくか職員・係と相談しあいマニュアル等の作成や記録簿を作っていきたいと思えます。

日々の保育では、保育目標に基づき一人一人を大切に、子供の生活と遊びを豊かにする保育を展開していると評価され嬉しく思いました。

結果を参考にし、できることから始め、職員研修や係と協力を得ながら今後の保育運営・保育内容をより一層高めて、職員の資質向上を目指したいです。